

# 花まるたより

2024  
106

Hanamaru  
Monthly  
Newsletter







2024年6月

## 見上げる大人

京都妙心寺副住職でスタンフォード大学などでも教鞭を執っている松山大耕氏が、アメリカの最新の研究でももしもい結果が出たけれど知っていますかと言って、あるデータを教えてくれました。「人間の学力の差は『遺伝子』と『育て方』、どちらの影響が大きいか」という論争が度々起こりますが、そこに割って入る新しい視点があるというのです。それは「どこで育ったか」という因子。どの町にも「ここが教育熱心」と呼ばれる地域があり、マンシオン販売などでも「〇〇中学校区内！」などと宣伝文句としてチラシに載せているのをしばしば見かけますが、確かにその視点には価値があるということが、著名な研究者によって証明されたというのです。そして松山氏いわく、その意味は「幼い頃に『どんな立派な（どんな言葉）を語り、どんなことで笑い、どんな哲学を持っているか）大人たちを仰ぎ見て育ったか』が、その人の一生に大きな影響を与える」のだからということなのです。

それを聞いた瞬間、いくつかの事例を思い出しました。孟母三遷の故事はまさに良き育ち場を求め引っ越しまでするという意味ですし、私の身近な事例としてはタカタコインタビューで聞いた弊社社員、前原匡樹の例があります。もともと前原家は奄美大島に住んでいた。しかし小学生の頃、彼の教育環境を考慮して鹿児島市内のある地域に引っ越した。鹿児島というのは江戸から明治にかけての「郷中教育」という地域ごとの猛烈に熱い教育があつて、明治維新の有名人が同じある町内から輩出されたことなどが有名ですが、前原が引っ越した地域は公立小から公立中に行く子ばかりだったけれど、同じ小学校でその地域にいた6人の同級生は長じて、東大・京大・一橋大・慶應大・早稲田大・大阪大に進学したというのです。たかが受験結果といえはそうなのですが、それでも都会の私立中受験文化とは隔絶された地方都市としては傑出した結果です。きっとその地域ならではの大人の水準の高さがあつたのでしよう。

一方こういうこともありました。落合陽一氏の番組に出たとき、私のいつもの「子育ての時間軸（4歳〜9歳の幼児期の赤い箱と、11歳〜18歳の思春期の青い箱）」をホワイトボードに書いて解説していたら、落合氏は「18歳からの箱があると思う。そこで誰と出会うかが大事な気がする」という趣旨のことを語りました。筑波大の研究室でその年代の教え子を育てている彼ならではの現場感あふれる意見だなという程度の理解でそのときは過ごしたのですが、偶然にもそのことを確信させることが起こりました。

それはメーカーズという若手起業家を支援する会のことです。もう何年も続けている奉仕活動の一つで、毎年力ある若者が自分の夢の実現に向けて意見発表やグループワークなど切磋琢磨する時間を過ごし、私を含む社会人はメンターとしてアドバイザー等を行います。今年も見どころ十分の青年ばかり。そこで気づいたのは多くの学生が、落合氏はもちろん、安宅和人氏、鈴木寛氏、松尾豊氏、伊藤羊一氏等々、当代きつての輝く大人の下で学び薫陶を受けているということ。日本全国には無数の大学の先生もいるなかで、私から見てもすごいなと感じるスーパーマンと大学で直接意見をもらえる距離になれると、落合氏の先の発言通り、若者は大きく成長するのだと痛感しました。

さて、「どこで育つか」も「大学で誰と出会えるか」も、共通する本質は「見上げ尊敬できる大人がいるかどうか」ということ

高濱の本棚

## 『児童精神科の看護師が伝える子どもの傷つきやすいところの守りかた』

こど看 著  
(KADOKAWA)

心動かされる出会いや経験を通して、素直に良い影響を受け、行動する人間に育てるには、幼い頃どうするか。『子どもの傷つきやすいところの守りかた』は、児童の精神の専門家として現場で子を見つめ考え行動してきた方しか書けない金言に満ちた一冊。近年最良の子育て・教育の参考書であろう。



花まるだより 2024年6月号  
(令和6年6月15日発行)

編集・発行 株式会社こうこう  
花まる学習会  
発行人 高濱 正伸  
企画・編集 久慈 菜津紀・生井 ちま  
編集 金井彩・清田 奈甫  
坂田翔・高橋 奈穂・平山 真康  
デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子  
印刷 アークランド株式会社

でしょう。そういう意味で、最近「こういう大人って素敵だな」「こんな方のそばに子どもがいれば、良い影響を受けるだろうな」と新しく感じた例を紹介します。

それは、4月頭に無人島に行ったときのことです。年に数度行くのに「私も行きたい」と申し出てくださった方のうちの何名かをお連れしているのですが、今回は、大手出版社で30年間も図鑑作り一筋で生きてきたAさん、その監修に携わってきた大

学教授Bさんの50歳代のお二人と一緒に。そこで見た彼らの姿が秀逸でした。お二人ともバツと見は地味で誠実なお父さんという印象なのですが、Bさんは投網を持参して我々に指導してくれたり、沖に停泊したボートに力ずくで登ったりまわりを泳いだり網を投げ続けたり、田舎の夏休みの少年かというくらいとどまることなく海と戯れ続けていました。またAさんは、岩場に頭を突っ込んでジッと何事かを観察し続ける方で、図鑑製作担当者らしく事実確定にキラリとした輝きを見せるのでした。たとえば別の参加者が「山でワラビを採ってきました」と持ってくる、ん？という独特の探偵のような表情でその山菜を凝視し、首を傾げ辞典と照らし合わせて「これ、似ているけれど違いますね。見てくださいここ、ちょっと毛が生えていますよね」と判定して見せたり、海藻を収集してくると鑑識官のように目を寄せて「あ、いたい

た。これ見てください。ワレカラという生物でね。この顕微鏡写真がすごいんですよ」と教えてくれたりしました。長年生物を愛し自然界を理解しようとして生きてきた彼らとともに、魚貝類や山菜を採集することは独特の楽しさを醸し出し、作った料理はひとさわおいしく感じたのでした。特にノビルはうまかったです。

魅力的な大人と一口に言ってもそのありようは多様です。みんなを引っ張るタイプの魅力や、人を引きつけて何かを演じたり笑わせたりしてくれるような魅力など、さまざまです。今回このお二人とキャンパスに感じたのは、何事かを研究・探求するオタクタイプの生き方をしている人たちの輝きです。一見すると派手さはないのですが、付き合えば付き合うほど相手の「何かを好きである様子」「どこまでも深掘りして調べわかろうと生きる生き様」などが伝わってきて素晴らしいと感じられるのです。

世の中はいままさに探求ブームで、「探求型の教育」も各種あふれています。AさんやBさんを見ていると「探求型の学びとは本来、主体的で孤独で寡黙」なのだろうと感じました。声をかけても聞こえないくらい黙って何事かに集中し考え続け調べ続けているのが、真の探求の姿なのだろう。そして、それはまわりを楽しませるタイプの外交性はあまりないかもしれないけれど、純粋で美しくとても魅力的な生き方

である。そういう「本当の自分の関心」にのめり込んで生きる人と接することは、こちらにまで幸せをおす分けしてもらえないような喜びの時間となるのだなと感じました。

さあ、まもなく夏休み。大自然は多様な無限の魅力を提供してくれます。子どもたちにも多くの体験を。そして、「素敵なお大人」と一人でも多く接する夏となりますように。

花まる学習会 高濱正伸

## 新刊情報

### 『花まる学習会 「書けない」から卒業する 作文の授業』

坂田翔 著 高濱正伸 監修  
(実務教育出版)

花まるの教室で子どもたちが書いた実際の作文を題材に、「書くこと」の本質を語った一冊。子ども時代に作文を通じて伸ばす力は、表面的な「文章力」ではありません。もっと大切な、一生をみずみずしく生きるための力です。ぜひ親子でお楽しみください。



次世代の  
スライム誕生。  
こんなにおもしろい  
作文の本はありません。

高濱が、花まるの教室長をちょっとおちゃめに紹介するこのコーナー！「タカタコ」は、高濱による他己紹介で教室長を深掘りします。2024年度のテーマは、「私の母」。各教室長が実際に自分のお母さんや家族に改めてインタビューした内容を、高濱がまとめました。







サマースクール  
秘密基地作り  
&  
森遊びを  
のぞき見

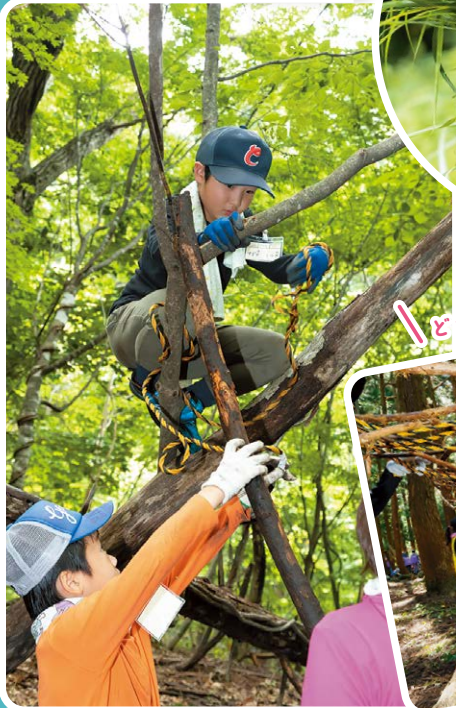
石、木、葉っぱ...  
森にあるもの  
ぜ〜んぶ！  
たからもの♪



草を刈ったよ！



ぎゅーつとロープを  
結んで！



ここから  
どうしようかなー？！



秘密基地の  
骨組みが完成〜！





# さあ！ カメラを持って、港町に出発だ！



久里浜港～金谷港

フェリーに乗船！

サマースクール  
港町探索を  
のぞき見



海、貝殻、魚、  
金谷の人々…  
パシャリ！



水鉄砲遊び



サマースクール後に、  
現像した写真を見  
るまでが  
お楽しみ♪



スイカ割り



おいしい～！



どこに  
いこうかな？

駄菓子屋さんがあるよ！



美しい夕焼け



私の母は、「天才」の兄とかわいい妹にはさまれた第三子長女。まず自信がないし、「失敗だけはしないように、何もしないのが一番」と考えていたし、ストーブとお布団が友達で読書や一人遊びばかりしていました。高校のバレーボール部で鍛え上げ、男子を3人出産後は、何だともう目のことを必死でやっていたら、いつの間にか果立っていた」そうです。 | 内海拓也・タックマン



# 思わず熱中する火おこし!



サマースクール  
火おこしのぞき見

火おこしアイテム  
「ファイヤースターター」に挑戦

火がつくまでにドラマがある  
「うまくいかない」の先にある最高の喜びを仲間とともに



できたー!

いろいろなものに火をつける  
&  
火を持續させられるかチャレンジ!



薪や  
新聞紙を組んで  
炭に火をつける



ナイフを使って  
フェザースティック作り



清修行、  
座禅、  
草原遊びも  
するよ!

焼いた  
マシユマロ



薪割り  
キャンプファイヤー



叶いますように~!!

自分が割った薪に  
将来の夢を書こう。  
みんなの夢に火を  
灯してキャンプ  
ファイヤー!

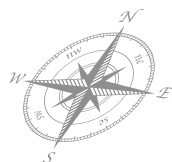




# 今どうしてる？

## 卒業生物語

ゆづりこそ先輩!!



花まる学習会・スクールFC卒業生のその後に迫ります。  
第25弾は、野外体験部部長の箕浦が、  
伝説のきょうだいにインタビュー!! 【前編】



橋本大樹さん

【花まる学習会】みたけ台幼稚園教室（小2～6）  
\*担当教室長：箕浦健治 ほか  
【スクールFC】あざみ野校（中1～3）  
【進路】公立中学校→神奈川県立市ヶ尾高等学校→法政大学  
【現在】会社員



橋本舞さん

【花まる学習会】みたけ台幼稚園教室（年長～小3）  
\*担当教室長：箕浦健治 ほか  
【スクールFC】あざみ野校（小4～中3）  
【進路】公立中学校→法政大学高等学校→法政大学  
【現在】会社員

きたいです！」と手紙を書いて箕浦先生に託しました。

箕 神奈川に開校した教室が大きくなってきてFC開校のリクエストをいただくようになったタイミングで、大樹がアツイメッセージをくれたんだよ。大樹のお母さんも何度も高濱の講演会に来て「花まるっ子がほかの塾に行くなんてもったいないです！」と直訴してくれて。そんな想いを受け取ってあざみ野校を開校できたこと、本当に嬉しいよ。

舞さん 兄と一緒に私もFCに通い、中学3年生までお世話になりました。

大 大学時代には花まる・FCに講師として戻らせていただき…本当に長い間お世話になりました。

### ■花まるの思い出

箕 印象に残っている教材・教具はある？

大 たんぼほです。リズムよく、大きな声で読めることが楽しくて。家庭用なぞペーも大好きでしたね。

舞 私はキューブキューブです。普段の生活で立体を想像して組み立てることはあまりなかったのですが、新鮮で楽しかったです。毎回授業で取り組むなぞペーも大好きでした。

箕 さすがだなあ。野外体験のことは覚えてる？

大 やっぱ川での飛び込みが印象深いです。「高濱先生と行く修学旅行」には子どもとして参加した数年後、リーダーとしても参加しました。

舞 私も飛び込みが心に残っています。あと…毎回ホームシックになる子がいて、みんななちにしてもらっていたから、自然とそういうことができたのだと思います。

箕 そんなふう覚えていてくれて、感無量だよ。



▲川遊びを満喫する舞さん



▲思いっきり海に飛び込む大樹さん

### ■お母さんのこと

箕 お母さんはどんな人？

大 好奇心が旺盛というか…縁をつなぐのが趣味、のような人です。日頃からたくさん人とコミュニケーションをとっていて、何かをやりたいと言っている人がいれば「〇〇さんがこんなことをしているから紹介するよ」と声をかけていました。そういうことってエ

ネルギーが必要だからやらない選択もできるけれど、母は積極的にしていましたね。

舞 お母さんは人が大好きというか…人に興味がありすぎる(笑)。近所のどこに行っても「お母さんと話したよ」と声をかけられて、娘としてきちんと挨拶しなければとプレッシャーを感じることもありました。小さい頃から初めて会う人と関係性を築いていくことに抵抗がなかったのは、母がいろいろなところに連れて行ってくださった人に会わせてくれたからかもしれません。

大 幼い頃から伝え続けてくれた『これでもいい』じゃなくて、『これがいい』と言いなさい』という言葉も印象的です。言葉のような感じで、誰かの評価を待つのではなく人生を自分軸で考えるようになりました。

箕 素敵だなあ。お母さんの背中を見て育ったんだね。そんな二人が卒業してどんな日々を過ごしたのか、じっくり聞かせてよ。



学生時代の思い出や花まるっ子たちへのメッセージなど「後編」もお楽しみに！







こんげつ

# 今月のレインボータイム

れい

くだもの



すうじ

## 【パスワード】

やじるし れんそう  
矢印のヒントからそれぞれ連想して  
ぜんたい みちび  
全体のワードを導きだそう!

みずぐち れい はな がくしゅうかい  
出題：水口 玲 (花まる学習会)



かいとう  
解答はこちら!

### レベル10-1

すうじ すうじ



くだもの

### レベル10-2

すうじ すうじ



くるま

### レベル30-1

じぶん



くだもの

### レベル30-2

いし



とり

さかな

### レベル50-1

ちいさい むし



やさい

### レベル50-2

しょくぶつ むし



おもちゃ

### レベル99

すうじ ようび おなじ



たべもの



# 職人の無人島

「花まる子ども冒険島」開拓のため、カトパンに続いて広島に引っ越した職人。トパンに続いて広島に引っ越した職人。港がある安芸津町に新たな拠点もでき、ますます力が入ります。そんな2人の日々を、現地からレポートします。

小屋づくり④

二つの巻き尺を交差させて、四角形の対角線に伸ばす。その長さが同じになるまで四つ角の位置を少しずつ動かしていく。あれ？ この作業、前にもやったよいう気がする……。それもそのはず、これで3回目だ。2度あることは3度あるのか、それとも3度目の正直となるのか。ことわざ界も注目の一戦。ただ、我ら鉄パイプ四天王には勝利への確信がある。前回はひし形、今回は正方形なのだから。

「そんなこと言ってもまた同じようなの買うんでしょ」「違うよ、今度のは辺の長さは同じだけど角が直角なんだ」「そんなの言われなければわからないじゃない。そういうのを同じようなのって言うのよ。それ本当に買う必要がある？」いや、見た目は似てるけど性質は全然違うんだよ」「はいはい、そうやってまた押し切るつもりね。どうぞコレクションなさってください、だわ。ああもつたいない」「違うんだよ……」。あるときは釣竿かもしれない。またあるときはゴルフクラブかもしれない。同じ境遇を生きる同志に、この正方形を捧げよう。

対角線が1センチの誤差もなく揃った瞬間、目盛りを読み上げた声そのまま歓声に変わっていた。開拓冬の陣、その勝ち鬨であった。軍配は、3度目の正直

に上がった。と、田口トモロヲが言った気がした。基礎の完成である。

「基礎ってやっぱり大事なんですね。サボテンをやるのとかも本当に大事」。ひとしきり喜び合ったあと、もっちりがしみじみとそうつぶやいた。建物の基礎も学問の基礎も同じように大事、という意味である。深い言葉だ。現に、正方形についての基礎知識がなければ、我々はいまこうして正確な小屋の基礎を作ることはできなかつた。人は何かを学び身につけようとするとき、言わば自分のなかにピラミッドを建てる。かけ算ができないとわり算ができないように、下段のない上段はない。基礎は一番下ですべてを支えている。

その先の作業は単純だ。完成した基礎に沿ってパイプを組む、角材を取り付け、壁材を貼り付けていく。基準が決まれば、あとはそれに合わせていくだけなのだ。その頃には別動隊だった「しまごろう」も合流し、5人衆となった我々は大人の本気で前半の遅れを一気に取り戻すべく奮闘した。いままでのチマチマとしたスピードとは打って変わって、作業はスムーズに進んでいく。こうして4面の壁のうち、1面が完成した。と、今回の開拓はここでタイムアップ。次回以降の開拓団に作業が引き継がれることになった。進行は緩やかでも、誰かと歩む

ことに開拓の意味はある。

こうして、小屋の建設が始まった。最難関の基礎も完成し、あとは順調に組み上がっていきだろう。今度こそ、勝ったツ——「相手が勝ち誇ったとき、それはすでに敗北している」。

(つづく)

花まる学習会 橋本一馬



小屋の前での集合写真。ここから建設が順調に(?)スタートした。

無人島企画や最近の様子を配信中！ぜひ登録してね！



花まる子ども冒険島公式LINE

## カトパン 加藤 崇彰

花まる学習会 無人島プロジェクト責任者。学生時代から、花まるの野外体験に深くかかわってきた。現在は広島県へ移り住み、オンライン教室の教室長を務めながら、開拓団の受け入れや無人島開拓の準備を進めている。



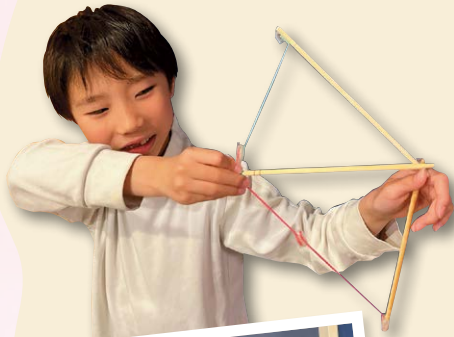
## 職人 橋本 一馬

花まる学習会神奈川東北ブロック教室長。前職が家具職人だった経歴から「職人」のミドルネームを持つ。家具製作技能士、狩猟免許、ブッシュクラフトアドバイザーなど、ちょっと変わった資格や経歴を活かし、「メシが食える大人」に独自の視点でアプローチを行うことが好き。広島で2年間無人島開拓に携わったのち、現在は神奈川でキャンプ教室を企画中。





いちくん (東京都)



『平家物語』の平清盛が弓矢で戦うシーンを読んで、弓矢をつくりたくなったそうです。読書から工作へと、興味のままにすぐに移行するのが、近くで見えて柔軟で面白いなあと思いました。割り箸・輪ゴム・テープといった、常に家にある材料を使ったのも、熱が冷めずすぐに作れたポイントだったのかなあと思いました。何度かやり直したり、輪ゴムの数を調整したり、楽しんで工夫していました。



「あなたはほしい？」  
自分のころに向き合った  
子どもたちの作品展です。

Rinせんせいより

よく見ると輪ゴムがテープでつないであって、伸びすぎ張りすぎの絶妙なポイントをつかむために調整したんですね。読書から工作の流れ。構えたときのいちくんの真剣な表情からも、いかに物語に共感し、想像したかがわかります。「つくりたい！」ときの熱量ですぐにつくると嬉しいものですね。(ちなみに子どもの頃のRinせんせいのお母さんは、いつも空き箱を捨てていかどうか確認してくれていました。)



保育園で散歩に行った際にトカゲを見つけた、という話をしている最中、突然「つくるか」とつぶやき、材料と道具を集めてつくり始めました。まずは「こんな感じだったんだよ～」と言いながら絵に描き表し、その絵をもとに工作を始めました。工作となるとイメージとのギャップが生まれ「こうしたいんだけど～！」とちょっといらだってしまう部分は随時サポートし、どう表現するか迷う部分は質問しながら対話をしていくと「いいこと思いついた！」と自分なりに工夫していきました。「イメージ通りにいかないもどかしさ」を感じつつも「それを飲み込み自分なりに工夫する」ことが少しずつできるようになってきたなと感じます。一番のひらめきポイントは「尻尾は、折り紙を丸めて筒状にしたあと、つぶして硬めの板にする」部分だったようです。丸める手つきなども、成長したなあと感じました。

Rinせんせいより

お話していると「つくるか」となるところが普段からつくりなれているんだなあと感じます。「こんな感じ」をまず絵におこして、設計図から制作に入ったいつきくん。「イメージ通りにいかないもどかしさ」、わかります。試行錯誤したあとの達成感を知っていると「これだから自分でつくり出すことはやめられない！」という脳になっていくんですね。この時代は、工作の手つきもそのまま、成長の記録ですね。折り紙のしっぽ、いいね！



いつきくん (神奈川県)

今月のARTレシビ

『ペーパーハウス！』

みんなの  
うちART作品を  
お待ちします！

- ・レシビ部門
- ・じゆう部門

Rinせんせいにおくってみよう！



Rinせんせいがつくってみたよ！

折って切ってひらく、の要領で、今回はじゃばらの家をつくってみました。窓やドアを切ってつけて動かして、なかはどんなふうにしようと思像してのぞいてみるのが楽しくてたまりません。いろいろな大きさの紙やダンボールでもつくって遊べそうです。

動画では固形絵の具を使っていますが、ペンやクレヨンで描いてもいいですね。日常的に絵の具を出すのは大変だな、という場合に、固形絵の具はとっても片付けが楽なのでオススメです。筆と水(と雑巾)があれば、さつと色が塗れますし、最近は100円ショップでも売っているのを見つけたよ。

今回の動画が簡単！と思った人は、発展編の「立体ペーパーハウス」にもぜひ挑戦してみてください。

<https://youtu.be/JfLeT3w57Vc>

つくり方を  
動画で  
見てみよう

じゅんびするもの  
・ハサミ ・紙 ・クレヨン ・描くもの

こころと頭を  
同時に伸ばす  
幼児期の子育て

Rinコラム

58

子どもがマネる、  
大人の振る舞い

子どもはとにかく真似して学ぶものです。私もよく「家で先生のマネをしているんです。だからどんな授業かわかります〜」「美しいね、おもしろいね、という言葉を使おうになりました」と言われたりします。

子どもにことばかけをしたときに、いったい何が伝わっているのでしょうか？ 彼らは、大人の口調やそぶりをそっくり真似してしゃべっていることがあります。それはある意味、「子どもに何が伝わっているか」がよくわかる事例かもしれません。

「〜しちゃダメでしょう」と何度言ってもちっともいうことを聞かない子どもが、子ども同士のやり取りのなかでは「〜しちゃダメなんだよ?」なんて、大人のふりして小さな子どもに注意していることがあります。「わかってるなら、あなたもやってよ(笑)」と思わずにはいられないかもしれません。それは「大人の練習」をしているんだなと微笑ましく見守ります。

靴をぬぎ散らかす子に、いろいろ言っても「こうやって揃えるものなんだよ」と言って、目の前で靴を揃えて見せて、それ以上触れないほうが、やがて芽が出たときには素直に伸びるものです。

そのようなやり方は時間がかかるし、何度も繰り返す必要があります。けれど、そらやって「大人の振る舞い」を見ていた子は、そのうち自分より小さな子の前で「こらやるのよ」と言って大人の役を演じるようになります。

「ああしてこうして」と反発心を呼び起こすよりも「大人とはこうして振る舞うものだ」ということを目の前で身をもって示してあげるほうが、素直に子どもに染み込んでいきます。「ああしてこうして」と言いついてくると、子どもはそれをそのまま「大人の振る舞い」として身につけ、人にいろいろと小言を言うのが大人だとかで思うようになっていくのでしょうか。

先日、「なぜかっというところ……」の言い方を大人にも口マネされました。きっと私は、子どもたちに何かをしてほしいとき、何かを伝えたいとき、「その理由はなぜなのか」も一緒に伝えるのが口癖になっているのだなと気づきました。

だから私は、少し話が長くなるけれど(笑)、子どもたちには「なぜだと思っ？」

と問いかけるのでしょうか。「どうしてだと思っ？」とその行動の理由をいつも考える。そうすると、「大人がそうしろと言ったから」するのではなく、納得して自分でものごとを決める機会にすることができるようになります。

「授業のあった日はずっとRinせんせいになりきっているんなイベントをする、Rinせんせいごっこなるものをしていました(笑)」

「息子は『これをRinせんせいふうに言うところ』と言ったときがあり、それは必ずポジティブな表現や内容です。自由にやっていいのだ、うまくいなくてもくじけずに、発想の転換をすればいい、なごです」

……とこの原稿を書いているいまも、保護者の方からのメッセージは止まりません。つくづく、大人は子どもからマネられるものなのだ、と背筋が伸びる思いです。

みなさんも、わが子が外で自分のどんなマネをしているかな? と想像するとおもしろいかもかもしれません。

Rin (井岡由美)

## Atelier for KIDs



全国から  
参加可能!

NEW!

### おうちアトリエコース

素材セットとおたよりがご自宅に届き、お好きなタイミングで制作をします。

ZoomまたはLINE公式アカウントにて、鑑賞会も行います。

詳しくはHPをご覧ください。

参加費：1名2,500円(送料・税込)

申込締切：7/3(水)19:00

「こころと頭を同時に伸ばすA1時代の子育て」  
(実務教育出版)より



7/21(日) 10:30~12:00 キャンドルホルダー制作

### 【対面コース】

対象 年長~中学生  
定員 30名(予定)(お茶の水花まるラウンジにて)  
参加費 対面1名3,500円(税込)  
申込締切 7/3(水)19:00

<https://www.hanamarugroup.jp/art-edu/news.php>





花まる教室長がお届けする  
子育て奮闘記

## 花まるリビング

36

勝谷里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、小4・小2・2歳児の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくご伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんずう初級』（学研プラス）ほか



### 「ケンカトリガー」の言語化

小4の長女が、「青い箱」に入ってきました。

花まる学習会やスクールF.Cの講演会などでよくお話ししているのですが、9才ぐらいまでが幼児期の「赤い箱」。振り返りができない、落ち着かないなどの特性があるオタマジャクシの時期です。その後、グレイゾーンを経て、10才以降が思春期の「青い箱」、カエルになる時期。振り返りができるようになったり、学習体力がつく一方で、親には反抗的になり外の師匠が必要になってきます。

先日、「北海道府県について調べ」の場面で、「北海道で有名なものは？」と若手県庁で「こごご」と何でも親に聞いてくる長女。参考書があれば進めやすいかなと思いつき、花まるで出版している北海道府県の書籍を購入して「次からはこれで調べてね」と渡したところ、ちょうど虫の居所が悪かったのもあるとは思っていますが、「本を買ってなんて言っていない」「どうして、ママはいつも、花まるの本ばかり買うの」と食ってかかれて、こちらもカチーン。「いいと思ってるから買うんだよ！ 人に何かをしてもらったらずますはありがとう、でしょ」と、瞬間沸騰。怒鳴り散らしてしまいました。

高濱がよく「母親は、高学年の娘は会社の後輩と見え（子ども扱い）するのではなく、対等な大人としての接し方に変える」と話していることを、知識として持っている。

また、スクールF.C代表松島による「Voice」幸せな受験ラジオの思春期女子への向き合い方の回で「母子ともにホルモンバランスの変化がある時期だからイライラしやすい、自分で何かを解決したいと思っている時期、まずはじっくり話を聞いてあげてく」というアドバイスも聞いたことがあり、参考にしよう、とメモ。

ただ、子どもの「カチン」とする言動の前に、冷静にそれらのアドバイスを実践するのが、なんと難しいことか……！

イラッときたら6秒数えるや、スマホの待ち受けを子どもの小さい頃の写真にして、それを見ていったん心を落ち着かせるなど、アンガーマネジメントの手法もあれこれ耳にしますが、それでも、この「心の底から湧き上がる怒りやイライラ」って、対処したいものがあるよな。自分がこんなに感情的な生き物だったとは。親になって揺さぶられる部分は本当に大きいです。

さて、私はいま「この自分のイライラをどうしようか」という段階で「これっ！」という根本的な解決策は見つかっていないのですが、最近、自分が育児メモに書いた「長女との「ケンカトリガー」を知っておく」というキーワードは、割と有用でした。

自分は、子どものどこなところかイライラしやすい、ケンカになりやすいのか、を言語化しておく。↓たとえば

- ①子どもが自分のイライラを「人（親やきょうだい）にあたることで発散しようとしている」ことに対してイライラする。
- ②「やらなくてはいけないこと」が終わっていないのに、だらだらしているのを見るとイライラする。

その後、仕分ける。

①に関しては譲れない。普段から「私はそう考えている」ということを伝えるし、そういう事態になったら論ずる。②に関しては、個人の資質による（夏休みの宿題を最初にするか、最後にするかは人それぞれ……）ので、それは本人の裁量に任せて、自分の感情からは切り分ける（いい意味で感知しない。本人が困っていたら、また考える）。

ここまで言語化しておかげで、子どもの言動への「イライラ」の場面になったときに、割とすぐに分析することができて、①のケースだったら「後輩OJに対応じっくり話を聞いてから論ずる」モードに切り替える。②のケースだったら（よし）、放っておこう！ このイ

ライラで、私の時間を消費するほうがもったいない」と、切り替えることに成功したケースが何回かありました。

子育ては、嬉しさとイライラが常に両輪ですが、考え続けることはやめずにいいたいなあと思います。今回のケースが、何かしらの参考になりましたら幸いです。

花まる学習会 勝谷里美



『マンガでわかる! 10才までに覚えたい 47都道府県』  
高濱 正伸 / 佐藤 暢昭 監修  
(永岡書店)



『にっぽん地図絵本』とだこうろう 作・絵  
(戸田デザイン研究室)

知識としても学ぶことが多いですが、デザインもかわい絵本です！ 旅行の思い出話や、有名な山や川の話が出たときなど、機会があることに「あ、この本にもかいてあったよ」と親子でパラパラと楽しめてみるのがおすすめです。



『だじゃれ日本一周』  
長谷川 義史 作  
(理論社)

—47都道府県をだじゃれてくるとってみよう！  
言葉遊びやだじゃれ、ギャグに興味をもちだしたら、ぜひ！ 楽しみながら都道府県に触られます。絵にも特産品がかかれてるので、高学年で都道府県の勉強をしている時期に、答え合わせのようにそれらを探してみるのもおもしろいかもしれません。

私の母は、小田原の良家の祖母に育てられました。厳格な家風を引き継ぎ、言葉遣い・食事の所作・門限などに厳しく、叱るときには「お里が知れますよ」と言われました。「21歳のうちに結婚しないならお見合いをさせるよ」と言われ21歳で結婚。そのとき祖母は「どこへ嫁がせても取らずにこの娘に育てました」と相手の親に言い切ったそうです。| 西山由乃・わっしょい



Kenji  
箕浦 健治  
(ファイヤー)  
minoura

## 長女の子育て

「いままでもこれからお父さんは、ずっとずっと一番の味方だよ。自分を信じて自分の目指す道を進んでいいんだよ」

7月で24歳になる娘に昨日送ったメッセージです。

2000年7月21日に長女は生まれました。誕生の瞬間、私は千葉にあるマザー牧場にお泊まり保育で来ている100人の園児と遊んでいました。宿に戻ると、見たこともない数の着信が携帯に残っており、「生まれたんだな」と携帯を抱きしめたのをいまでも思い出します。

その日、車で千葉の病院に行き、1分だけ抱っこさせてもらい、初めてのわが子の重みを感じる事ができました。寝返りをしたのを見て歓喜し、ハイハイしたのを見て涙し、世の中にこんなに愛おしいものがあることを知りました。幼稚園に入園する前に、わが子のことを考えて家族の掟を作りました。

「嘘はつかない」「人のものをとらない」「自分がされていやなことはしない」「食べ物はでんかをしなさい、心が貧しくなるから」「ことはを大事にする」「どんなことがあっても生きろ」

何かあるたびに家族の掟をみんなで考えて、ノートに書く習慣ができたのも、この頃からです。

年長から花まる学習会にも通い、伸び伸び育っていました。あるときティズニードのダンスサーに魅了され、「将来はプロのダンサーになる。ダンスを習わせてください」と言うので、家の近くのダンススクールの通わせました。その夢は小学生になっても続きます。

高学年になり、クラスでいじめられている子をかばい、自分もいじめられるようになった時期がありました。「学校に行きたくない」という娘の言葉から、何かあったことを察知し、学校に行かない日は私も仕事を休んで、時間割通りの生活を一緒にしました。しばらくして、いじめられていることを私に教えてくれた娘に、「いじめられている子の名前を紙に書いてお父さんにちょうだい」とお願いしました。10名ほど書かれた生徒の名前を見て、「大切な娘をどうしていじめられるんだ」「娘は悪いことをしていないじゃないか」という想いがこみあげ

てきました。娘が学校に行っている間、いじめられているかもしれないと思うと何もしてあげられない無力感から自然と涙が出ることもありました。数か月して徐々に元気になり、学校に行くのをいやがらなくなったので聞いてみると「いじめていた子とたくさん話をして、逆に仲良くなったから大丈夫」と笑顔で言われたときは、心の重みが取れたように感じました。

夢を追いつけて自分を信じて進んでいる娘から「できない理由を探すのではなくできることをやる」ということを教わりました。コロナが収束する頃、卒業した高校のダンス部のコーチの依頼が娘にきました。ダンス教室に通いながら、ダンス関連のアルバイト、高校のダンス部のコーチをしている娘から、先日、相談がありました。「私、このままでいいのかな。大丈夫かな」というLINEのメッセージ。

いじめた子の名前が書かれている紙は、いまでも私のお守りとしてずっと持っています。

いつも明るくふるまっている娘はずっと葛藤していたんだと気がつきました。

友人も増え、中学生になりました。中部にはダンス部がないのですが、高等部にはありました。入部をあきらめるのかなと思っていたら、毎日高校生のダンス部を見学しにいき、離れたところで一緒に踊っていたそうです。その熱意に押されて、顧問の先生が中学2年生からの入部を認めてくれました。高校生になっても都内のダンス教室を自分で見つけて通い、年長からの夢を真剣に追い続けていました。高校生では全国大会にも出場しました。高校卒業後の進路も、ダンスを踊るだけでなく裏方の仕事も知っておく必要があるということで、照明などを学ぶ専門学校を選びます。そしてもう少しで夢に手が届くというタイミングで、新型コロナウイルス感染症が流行しはじめました。自宅で自粛している間も鏡の前ですっと踊り続けた長女。「コロナだから仕方ない」「コロナだから……」という言い訳を一度もせず、ただひたむきに

重松清さんの『とんび』という本のなかで「親が子どもを甘やかさんかったら、誰が甘やかすんな、アホ」という言葉がある。私はこの言葉が好きだ。

生まれたときのまだ目が開いていない娘を見て、「絶対に幸せに育てる」「誰がなんと言おうと自分の道を進ませる」「彼氏ができるときに呼ばれてかわいい名前によろ」と決めたことを改めて思い出し、返信しました。

送ったメッセージに、「ありがとう。お父さんの子でよかったです。夢をあきらめないで頑張るね。今度、彼氏を家に連れていくね」と返信。

「娘の彼氏が家に来る」の話はまたの機会に。

花まる学習会 箕浦健治



花まる学習会 箕浦健治





～絶対に「おもしろい!」と  
思える歴史本～



『勇者はなぜ、逃げ切れ  
なかったのか  
歴史から考えよう  
「災害を生きぬく未来」』

田所真 著  
(くもん出版)

土のなかから発見された遺跡から、時の  
彼方の人たちの声が聞こえてくる——。そんな考古学のおもしろさ、奥深さがわかる一冊。群馬県で発見された謎の「ヨロイの勇者」とはどんな人物だったのか？ その秘密を解き明かしたとき、古の人たちが自然とどう向き合ってきたのかがわかります。災害大国日本を知るうえで必読の一冊。



『日本史の  
13人の怖いお母さん』

真山知幸 著  
(扶桑社)

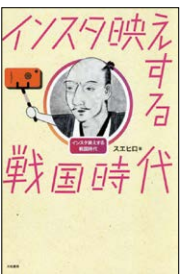
実は日本を動かしてきたのは一見すると強  
そうな戦国武将などではなく、彼らも恐  
れた怖い怖いお母さんたち……いやいや、  
抜群の行動力と決断力、人を引き付ける魅力を持ったパワフル  
ウーマンたちなんです！ 北条政子に淀殿、春日局などなど。  
世間では「悪女」とされるお母さんたちの生きざまから、現代  
を生き抜くヒントが得られます。



『うごく浮世絵!?'』

よぐちたかお 作  
アーサー・ビナード 英文  
(福音館書店)

時代や国境をこえてたくさんの人にイン  
スピレーションを与えてきた日本の浮世絵。そんな世界に誇る  
浮世絵の名作が、マジックフィルムを使った「動く絵本」とし  
て新たな命を吹きこまれました。縦横に動き出す、北斎や写楽、  
英泉らの浮世絵たち……。英語のテキストつきなので、海外へ  
のお土産にしてもいいかも。



『インスタ映えする戦国時代』

スエヒロ 著  
(大和書房)

もしも戦国時代に、スマホがあったら？  
もしもあの武将が、あのアプリを使っ  
ていたら？ そんな数々の、ぶっ飛んだ「も  
しも」を実現してしまった一冊がこれ！  
幼少期の家康の「人質ツイート」、安土城の「築城 LINE グループ」、  
ザビエルの「インスタ布教活動」などなど。「くだらない!」と  
笑いながら、いつの間にか歴史が身近になっている……かも？



『ぼくらは少年鑑定団!  
鑑定ファイル1  
大発見! 謎の縄文土器』

くすのきしげり 著  
酒井以 絵  
(講談社)

アンティーク好きの小学生・突が仲間たちと結成した「少年  
鑑定団」は、偶然見つけた縄文遺跡を鑑定することに。すると、  
驚きの事実が——。2021年に世界遺産に登録された「北海道・  
北東北の縄文遺跡群」を知るにもうってつけの、薄くても奥深  
い一冊。2023年に刊行された第2弾は、町に伝わる河童伝説が  
テーマ。



7月 **〈第4回〉「本×夏休み ～2024年夏、この一冊をあなたに～」**

2024年の夏休みは、是非この回で紹介した本をかたわらに。海や山、冒険、古きよき日本の風景、戦争の記憶……。夏に彩りを添える本の数々をご期待ください。今年の夏に訪れるべき数々のスポットも紹介。理科教育のプロフェッショナルとの対談では「おすすめ自由研究テーマ」を多数披露します！

7/11 (木)・7/13 (土) 10:30～12:00  
参加費 一家族 500円 (税込)  
申込締切 開催前日の 19:00

<https://www.schoolfc.jp/extension/j-hirunuma/2024/>







豊田 星那

# 花まる ころん

## 感謝の5円玉

暑い夏が終わりを迎えました。子どもたちと過ごす夏は濃く、あつという間で嬉しそうに笑う姿、うまくいなくて葛藤する姿、友達と離れるのが寂しくて涙を流す姿。どの子どももさまざまな感情を抱きながら、ひとまわりもふたまわりも大きくなって帰っていく。2泊3日のサマースクールでそんな光景が何度も見られました。

私が参加したのは町探検をするコースです。子どもたちには1000円のお小遣いが渡され、使い道をそれぞれが考える、というプログラムがあります。チームで話し合いをしながら港町を探検するのですが、チームの仲間と揉めてしまったり、折り合いがうまくつけられなかったりしたのが4年生のNくんです。チームから少し外れて涙を流している姿を何

度も目にしました。そんなNくんは2日目の午後、町探検に行くことを渋りました。途中までは一緒に行動していました。途中で「自分は引き返したい」。町探検の続きをしようとしているチームの子がいるなかで、Nくん1人のために全員で宿に戻ることはできません。救護リーダーを担当していた私は、Nくんを連れて宿に戻ることにしました。

そのとき、Nくんのお財布のなかには95円が残っていました。Nくんはそのお金でお肉屋さんの90円のコロツケをかうことに決めていたそうです。午前中に熱々のコロツケを頬張っていた仲間を見て、「最後のお金はこれに使いたい」と決めていたのです。宿に戻るまでの道中にお肉屋さんがあったので、寄ってから宿に戻ることにしました。

お肉屋さんに入ると、店主のおじちゃんがテレビで甲子園を観ていました。Nくんの顔を見て「いらっしやい」と優しい顔を覗かせました。Nくんは「コロツケを一つください」と口を開きます。おじちゃんはNくんの言葉を聞いて少し困ったように、「暑いからもう油の温度を下げちゃったんだよ」と言いました。

うまくいくことはかりではない。これ

も学びの一つ。そう思ったのも束の間、おじちゃんは「おにいちちゃんのためだ」と腰を上げ、「10分くらい待っていられるかい？」とNくんに尋ねました。Nくんは目を輝かせて静かに大きく頷きました。

油の温度が上がるのを待っている時間は、他愛もない話に花を咲かせました。地元の話やおじちゃんの孫の話、高校野球の話……。おじちゃんにはNくんと同じ年の孫がいること、孫たちがNくんのきょうだい構成とまったく同じだったこと、Nくんは将来甲子園に出たいこと。おじちゃんは油の温度が上がる10分間をもNくんのために使ってくれました。

熱々のコロツケが揚がりました。90円を渡し、「ありがとう」の言葉を伝えると同時にコロツケを頬張ります。ふわあつとこぼれる笑み。感想がなくてもわかります。おじちゃんは満足そうにNくんの表情を眺めていました。改めて感謝の言葉を伝え、お店を出て宿に戻ります。100mくらい歩いた頃でしょうか。Nくんがポケットのなかに手を入れ、ふと、こんなことを口にしました。

「この5円、おじちゃんに渡したらよかったな」

Nくんのお小遣いは残り5円。宿に向かっ

て歩いた100mを、Nくんと一緒に走って戻りました。

「おじちゃん、この5円もらってください。ほくのためだけにコロツケを揚げてくれてありがとう」

言葉では伝えきれないほどの感謝の気持ち。自分のためを想って動いてくれた温かい心に触れる尊い経験。おじちゃんとの一連のやり取りは、Nくんの心に大きく残るものとなったでしょう。

おじちゃんはNくんからの5円玉を受け取ることはしませんでした。驚いた顔でNくんを見つめ、すぐに微笑んで、「おにいちちゃん、この夏の思い出の5円玉だ。大切にポケットにしまっておきな」そう言って、Nくんを温かい眼差しで見送ってくれました。

花まる学習会 豊田星那



花まるの  
教室長を  
紹介します!

# Hanamaru Family 花まるファミリー

🌐…オンライン    📺…アルゴクラブ    🌴…無人島    ⚽…スクールFC    🌿…Flos    🎵…フロス    🎧…アノネ音楽教室    🏠…GONOU 囲碁教室

みんなの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに!



いのうえ りょうた  
**井上 涼太**

神奈川県    神奈川県



かつらだ たくや  
**桂田 拓弥**

関西    東京都



かわおか みほ  
**川岡 未歩**

東京西    愛知県



きくち けんとう  
**菊地 健斗**

関西    山形県



さおとめ ゆうすけ  
**早乙女 優介**

東京東    神奈川県



さとう のぶあき  
**佐藤 暢昭**

埼玉    Flos FC 北海道



つばきはら あおい  
**椿原 葵**

中京    鳥取県



はまもと かずみ  
**濱本 和美**

神奈川県    広島県



みずぐち かな  
**水口 加奈**

埼玉    GONOU 東京都



みやさか たくや  
**宮阪 太久哉**

東京東    千葉県



やまもと しほ  
**山本 志保**

東京西    島根県



まんまん……………リーダーネーム

たかま まさのぶ  
**高濱 正伸**……………名前

……………所属

〇〇……………出身地  
熊本県

サマースクールや雪国スクールで会おうね!

6月の誕生花は ばら

私は母と非常に仲が良いです。小3から2年間不登校だったときには母子ぶっちゃけトークに救われましたし、高校生時代に友人関係で悩んだときにもそうでした。そしていま、母の夫婦間の悩みをじっくり聞いてあげています。実は、子ども時代の母は人目を気にして言いたいことも言えない引つ込み思案だったのですが、動物のような2人の子を育ててたくましくなったそうです。|吉田いつむ・よーいどん!